

付

録

一年表

年 表

古 代			原 始 時 代			時代区分
時 代 (墳 墓 時 代)			弥生時代	縄文時代	旧石器時代	
五世紀	四世紀	一三九	AD 五七年		BC 八千年	BC 二万年
川内川流域に地下式板石積石室が造られる			始良火山灰降下 (シラス台地できる)			
			桜島火山灰降下			
			アカホヤ火山灰降下			
			中尾田遺跡 (縄文土器出土)			
			縄文文化始まる			
			弥生文化始まる (稲作始まる)			
			釈迦が生まれる			
			キリストが生まれる			
			倭の奴国王が後漢に朝貢する			
			「漢倭奴国王」金印			
			卑弥呼が魏に朝貢する			
			大和朝廷の国土統一進む			
			大和朝廷朝鮮に出兵する			
			大規模古墳の築造進む (応神天皇陵、仁徳			

時代区分		古 代										
西 暦	日本年号	古 (和)					代 (大時鳥飛)					
		六世紀	五三八	五九三	六〇七	六四五	七〇一	七〇二	七〇八	七二〇	七二二	七二三
			(推古)元	一五	元	元	元	元	元	元	元	元
郷 土 の で き ご と		<p>(薩摩町別府原古墳群など) 大隅半島に古墳が造られる(高山町塚崎古墳群、大崎町横瀬古墳など) このころ木浦出土の須恵器の壺作られる</p> <p>薩摩の国置かれる 安良神社創建、鹿兒島神宮建立と伝えられる</p> <p>大隅の国置かれる</p> <p>新田八幡宮建立(川内市)と伝えられる</p> <p>大隅八幡宮建立と伝えられる(二説あり)</p> <p>和気清麻呂、牧園町中津川に流される</p>										
日 本 の 主 な で き ご と		<p>天皇陵など)</p> <p>仏教伝来 聖徳太子、摂政となる 法隆寺建立 大化の改新 大宝律令制定</p> <p>和同開珎を造る(日本最初の銅銭) 平城京(奈良)に遷都 『古事記』ができる</p> <p>『日本書紀』ができる</p> <p>東大寺大仏開眼供養</p> <p>平安京に遷都 最澄が天台宗を開く</p>										

中 世				平 安 時 代			
吉 野 朝 時 代		鎌 倉 時 代		平 安 時 代		平 安 時 代	
一三三九 一三七〇	延元 建徳 元 四	一三八一 一三三三 一三三四 一三三五 一三三六	弘安 元弘 建武 元 三 二 二	一一九二	建久 三	一一八五 一〇一七 八八二	大同 元 一 弘仁 一一 元慶 六
足利尊氏、加治木に安国寺建立 このころ岩堂観音近く、天満神石体像建立さ る		島津貞久、日向国守護職に補任される 島津貞久、大隅国守護職に補任される 岩堂観音石仏像（磨崖仏）できる（下ノ赤水）		「大隅国図田帳」できる このころ横川城に横川藤内兵衛尉時信がいた 左兵衛尉藤原長親、安良神社を修復する 大隅国在庁石築地役配符に「横河院三九丁五 段二丈」（約三九・五ヘクタール）と見える		このころまでに大隅国分寺・薩摩国分寺建立 と伝えられる 新田八幡宮建立（伝えられる（二説あり）） 島津忠久（島津氏初代）、南九州島津荘の下 司職に補任される。翌年島津荘総地頭職と なる	
後醍醐天皇没（北朝年号暦応二年） （北朝年号応安三年）		蒙古襲来（弘安の役） 鎌倉幕府滅亡 建武の新政始まる		源頼朝、征夷大將軍となる（鎌倉幕府成立） このころから庶民向けの新しい仏教が起こ った ・栄西の臨済宗 ・親鸞の浄土真宗（一 向宗） ・道元の曹洞宗 ・日蓮の法 華宗（日蓮宗） ・一遍の時宗など		このころから藤原氏の摂関政治 平氏滅亡、源頼朝、全国に守護地頭を設置 する	
足利尊氏、幕府を開き南北朝対立始まる （南朝年号延元元年）		蒙古襲来（文永の役）		空海が真言宗を開く			

中 世										時代区分
（戦	室	国	町	時	時	代	代	代	代	西 暦
一五六九	一五六二	一五六〇	一五六一	一五五五	一五四九	一五四三	一五〇一	一四九七	一四八七	一三九〇
		弘治 元	永禄 三	天文二 一八	一三三	永正 七	永正 六	明応 六	宝徳 二	元中 七
一五	四	三	三	一	一	七	六	六	二	九
郷土のできごと										日本年号
藤内左衛門正智、安良神社を修復する										（北朝年号明德元年）
酒井親久、安良神社を修復する										（北朝年号明德三年）
酒井久重、安良神社を修復する										金閣寺建立
安良山来福寺真乗院南の安良大明神本地の観音の蓮華座に「来福寺新像作者正椿」の記述あり										応仁の乱起こる
このころから南九州はおおいに乱れる。島津忠良（日新）とその子貴久らによる薩隅日三州の統一が進む										蓮如が石山本願寺を創建する
ポルトガル船が種子島に漂着										鉄砲伝来
フランシスコ・ザビエル、鹿児島に来る										キリスト教伝来
島津貴久、岩剣城攻めに初めて鉄砲を使用した										
山ヶ野薬師堂木像に「永禄四年辛酉」の記録ありと伝えらる（現在、堂・像とも不明）										川中島の戦い
島津貴久とその子義久・義弘により横川城落城（北原伊勢介・新助父子自害。迫田丹後守、北原民部戦死）										桶狭間の戦い
新納忠元を大口の地頭とする										

近				世				
江戸時代				安土桃山時代				
一六七五 一六七七	延宝 三	一六五九 二	一六一五 元和 一六二八 寛永 一六三九 一六四〇	一五九八 一六〇〇 一六〇二 一六〇三	一五九七 慶長 二	一五九五 四	一五八七 一五九〇 一五九二 文禄 元	一五七三 天正 元 一五七五 三 一五八二 一〇
山ヶ野の山ノ神社建立 山ヶ野の法華宗妙雲山遠沾寺建立(現存せず) 安良神社に吉田兼連筆の「安良大明神」五字	山ヶ野の山ノ神社建立 (約一八六八キログラム)	山ヶ野金山の年金産出量が最多となる	山ヶ野(永野)金山発見、幕府から採掘を許される	安良神社修復(郷中八四名連記札あり)	島津義弘、朝鮮の泗川で明軍と戦う 島津義弘、関ヶ原で西軍側として戦う 徳川家康より島津氏は所領を安堵される	島津義弘、再度朝鮮へ出兵する(帖佐から川内市久見崎港を経て——船五十余艘) 島津義弘、朝鮮の泗川で明軍と戦う 島津義弘、関ヶ原で西軍側として戦う 徳川家康より島津氏は所領を安堵される	島津義弘、一万五〇〇〇人の軍勢を率いて朝鮮へ出兵(栗野松尾城から) 島津義弘、帰還して栗野から帖佐に移る。兄義久は帰国して富隈(隼人町)に住む 島津義弘、再度朝鮮へ出兵する(帖佐から川内市久見崎港を経て——船五十余艘)	諏訪神社(現南方神社)の木面の背に天正十年と記されていたと伝えられる 豊臣秀吉、九州を平定(島津氏降る)
					慶長の役		文禄の役	室町幕府滅亡 長篠の戦い 少年使節ローマへ派遣(九州の三大名) 本能寺の変(織田信長亡ぶ) キリスト教の禁止令がでる 豊臣秀吉が全国を統一する
			鎖国令(ポルトガル船の来航を禁ずる)	徳川家康、征夷大將軍となり、江戸幕府を開く 豊臣氏滅亡(大坂夏の陣)				

近 代		近 世		時代区分
明 治 時 代	江 戸 時 代	江 戸 時 代	近 世	西 暦
一八七〇 一八七一	一八六九	一八四三 一八五三 一八六七 一八六八	一七九二 一七九〇 一七七五 一七五五 一七五四 一七五三 一七五二	一七〇五 一七二三 一七三四 一七三五 一七三五 一七五三 一七五二
四 三	二	明治元	寛政二 安永四 嘉永六 天保一四	宝永二 享保八 一八 一九 二〇 三 四 五
都城、横川郷となる	諸郷に常備隊を編成する 島津忠義（二九代）、鹿児島藩知事となる 寺領没収、藩内寺院全廃（廃仏毀釈）する 南泉院跡に島津家歴代の総社鶴嶺神社を造る	中ノ宮下に大火があつた 横川の郷士、戊辰戦役に参加する 西郷隆盛、大久保利通らによる倒幕運動 腰越神社に木製額を寄贈する（栗野川池氏ほか） 「三国名勝図会」六〇巻ができる	の額を掲げる 横川城山に北原伊勢介夫妻の墓（塚）を建て 黒葛原新田の灌漑用水路完成と伝えられる 安良神社正一位の神位を授けられる 安良神社に本田大和守が宣命を奉納する 薩摩藩に木曾川治水工事の幕命下る 木曾川治水工事に着手する 木曾川治水工事全部竣工する 山ヶ野の天神社建立と伝えられる 金山孝子武兵衛が島津忠昌から表彰される 腰越神社に木製額を寄贈する（栗野川池氏ほか）	日本年号
平民に姓を許す 廃藩置県を行う	明治と改元する（九月八日） 東京に都を移す（江戸を東京と改める） 版籍奉還が行われる	ベリ、浦賀に来る 大政奉還、王政復古 神仏分離令が布告される。江戸幕府滅亡する。	山川町で前田利右衛門が琉球から甘藷（かいも）を移植した	日本の主なできごと

太陽曆採用（二月三日を明治六年一月一日とする）

近		代		時代区分
昭和時代	大正時代	明治時代		西暦
一九三九	一九一五	一九〇八	一八九四	日本年号
一九三七	一九一四	一九〇七	一八九五	郷土のできごと
一九三三	一九一三	一九〇五	明治二七	日本の主なきこと
一九三一	一九一二	一九〇四	二八	
一九二七	一九一〇	一九〇三	二九	
一九二六	一九〇九	一九〇二	三〇	
一九二五	一九〇八	一九〇一	三一	
一九二四	一九〇七	一九〇〇	三二	
一九二三	一九〇六	一九〇〇	三三	
一九二二	一九〇五	一九〇〇	三四	
一九二一	一九〇四	一九〇〇	三五	
一九二〇	一九〇三	一九〇〇	三六	
一九一九	一九〇二	一九〇〇	三七	
一九一八	一九〇一	一九〇〇	三八	
一九一七	一九〇〇	一九〇〇	三九	
一九一六	一九〇〇	一九〇〇	四〇	
一九一五	一九〇〇	一九〇〇	四一	
一九一四	一九〇〇	一九〇〇	四二	
一九一三	一九〇〇	一九〇〇	四三	
一九一二	一九〇〇	一九〇〇	四四	
一九一一	一九〇〇	一九〇〇	四五	
一九一〇	一九〇〇	一九〇〇	四六	
一九〇九	一九〇〇	一九〇〇	四七	
一九〇八	一九〇〇	一九〇〇	四八	
一九〇七	一九〇〇	一九〇〇	四九	
一九〇六	一九〇〇	一九〇〇	五〇	
一九〇五	一九〇〇	一九〇〇	五一	
一九〇四	一九〇〇	一九〇〇	五二	
一九〇三	一九〇〇	一九〇〇	五三	
一九〇二	一九〇〇	一九〇〇	五四	
一九〇一	一九〇〇	一九〇〇	五五	
一九〇〇	一九〇〇	一九〇〇	五六	
	一九〇〇	一九〇〇	五七	
	一九〇〇	一九〇〇	五八	
	一九〇〇	一九〇〇	五九	
	一九〇〇	一九〇〇	六〇	
	一九〇〇	一九〇〇	六一	
	一九〇〇	一九〇〇	六二	
	一九〇〇	一九〇〇	六三	
	一九〇〇	一九〇〇	六四	
	一九〇〇	一九〇〇	六五	
	一九〇〇	一九〇〇	六六	
	一九〇〇	一九〇〇	六七	
	一九〇〇	一九〇〇	六八	
	一九〇〇	一九〇〇	六九	
	一九〇〇	一九〇〇	七〇	
	一九〇〇	一九〇〇	七一	
	一九〇〇	一九〇〇	七二	
	一九〇〇	一九〇〇	七三	
	一九〇〇	一九〇〇	七四	
	一九〇〇	一九〇〇	七五	
	一九〇〇	一九〇〇	七六	
	一九〇〇	一九〇〇	七七	
	一九〇〇	一九〇〇	七八	
	一九〇〇	一九〇〇	七九	
	一九〇〇	一九〇〇	八〇	
	一九〇〇	一九〇〇	八一	
	一九〇〇	一九〇〇	八二	
	一九〇〇	一九〇〇	八三	
	一九〇〇	一九〇〇	八四	
	一九〇〇	一九〇〇	八五	
	一九〇〇	一九〇〇	八六	
	一九〇〇	一九〇〇	八七	
	一九〇〇	一九〇〇	八八	
	一九〇〇	一九〇〇	八九	
	一九〇〇	一九〇〇	九〇	
	一九〇〇	一九〇〇	九一	
	一九〇〇	一九〇〇	九二	
	一九〇〇	一九〇〇	九三	
	一九〇〇	一九〇〇	九四	
	一九〇〇	一九〇〇	九五	
	一九〇〇	一九〇〇	九六	
	一九〇〇	一九〇〇	九七	
	一九〇〇	一九〇〇	九八	
	一九〇〇	一九〇〇	九九	
	一九〇〇	一九〇〇	一〇〇	

戦	近	代	時	和	昭	現
一九四〇	一九四一	一九四五	一九四六 一九四七 一九四八 一九五三 一九四九 一九五一	一九五二 一九五三	一九五六 一九五八 一九六三 一九六四 一九六六 一九六七 一九六八	
一五	一六	二〇	二二 二三 二四 二六	二七 二八	三一 三三 三八 三九 四一 四二 四三	
横川町制施行する（初代町長目床秋彦）	安良山頂に旧安良神社跡の石碑を建てて 横川森林組合設立認可される	迫田栄熊、二代町長に就任する	本村伊太郎、三代町長に就任する 初の民選知事重成格当選する 横川第一、二中学校創立する 万善要、四代町長に就任する 山ヶ野鉦山閉鎖される 一、二中を横川中、向陽中と校名変更する ルース台風が襲来、甚大な被害を受ける	目床秋彦、五代町長に就任する 在美群島日本に復帰する	横内保典、六代町長に就任する 『横川町郷土史』編纂される 高木小が安良小に統合される	鹿兒島にカラーテレビ本放送開始される 役場庁舎落成する 明治百年記念事業として丸岡公園造成開始す る
戦	日本紀元（皇紀）二六〇〇年記念行事行わ れる	太平洋戦争起こる（二月八日） 小学校を国民学校と改称する ポツダム宣言受諾、終戦となる（八月一五 日）	日本国憲法公布（翌年施行）される 国民学校を小学校と改める 新制中学校発足する	平和条約締結、日米安全保障条約調印され る	テレビ放送開始される（鹿兒島は昭和三三 年）	東京オリンピック開催される

現 代		時代区分
平成時代	昭和時代	
一九九〇	一九八八 一九八九 一九八四	西 暦
二	平成 元 六三 五九	日本年号
町制五〇周年記念式典を行う 羽田哲、八代町長に就任する	町郷土館落成する 全国植樹祭出席のため天皇陛下横川に立ち寄 る	郷 土 の で き ご と
昭和天皇崩御（二月七日）、平成と改元す る（一月八日）	新東京国際空港（成田）開港される 沖縄が日本に復帰する	日 本 の 主 な で き ご と

二 横川町小字一覧表

〔上ノ地区〕

小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
井 手 ノ 上	1～ 4	奥 ノ 谷	909～1009	茶 屋 之 後	2211～2238
牟 田 ケ 平	5～ 11	白 仁 田	1010～1042	釣 柴	2239～2310
岩 元	12～ 36	口 屋 ノ 谷	1043～1058	床 丸	2311～2336
小 脇 段	37～ 94	下 山	1059～1144	竹 下	2337～2377
小 脇 脇	95～ 126	居 附 谷	1146～1177	山 内 田	2378～2411
小 脇 大 迫	127～ 138	丸 山	1178～1220	猿 飯	2412～2455
安 良	139～ 170	愛 宕 山	1221～1293	上 松 川	2456～2472
安 良 山	171	普 請 方	1294～1369	下 松 川	2473～2511
川 路 尻	172～ 218	田 町	1370～1443	猿 目 ケ 尾	2512～2540
井 手 ム レ	219～ 243	道 円	1444～1457	十 三 谷	2541～2576
松 元	244～ 276	舟 戸 田	1460～1478	櫛 木	2577～2635
八 永	277～ 293	榎 木 田	1479～1512	濱 弓 場 原	2636～2665
瀬 戸 内	294～ 307	外 佐 牟 田	1513～1533	滝 ノ 下	2666～2698
内 佐 牟 田	308～ 334	北 園 三 反 田	1534～1571	鳥 喰	2699～2749
石 切 場	335～ 354	北 園 小 坂 元	1572～1608	平 牟 田	2750～2777
大 野	355～ 376	麻 生 原	1609～1678	古 城 原	2778～2829
東	377～ 397	水 流	1679～1731	風 ノ 神	2830～2842
近 部	398～ 449	水 流 前	1732～1778	迫 田	2843～2921
松 山	450～ 494	笹 ケ 平	1799～1789	飛 ケ 原	2922～2960
本 町	495～ 549	愛 宕 尾	1790～1843	小 園 原	2961～3017
新 馬 場	550～ 583	笹 ケ 前	1844～1859	役 所 上	3018～3085
湊 町	584～ 632	崎 山	1860～1884	紫 尾 田	3086～3162
倉 谷	633～ 688	久 保 野	1885～1902	轟 木 原	3163～3199
小 平	691～ 719	八 郎 谷	1903～1913	楠 木 迫	3200～3246
東 仁	720	前 山	1914～1933	森 田	3247～3277
中 唐 仁	721	小 谷	1934～1971	南 ケ 迫	3278～3348
西 唐 仁	724～ 727	柴 建	1972～1999	鷹 巢	3349～3389
牟 田	729～ 765	鏡 岡	2000～2061	鍋 迫	3390～3441
谷 頭	766～ 798	山 川	2062～2088	轟	3442～3483
仁 田 尾	799～ 802	松 岡	2089～2093	狩 俣	3484～3525
浦 ノ 谷	803～ 806	木 屋 木	2094～2143	水 ノ 迫	3526～3356
西 瓜 谷	809～ 842	大 鉢 田	2144～2167	大 迫	3357～3589
高 木	843～ 908	木 場 田	2168～2210	永 畑	3590～3615

小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
梅 木 ケ 迫	3616~3652	桐 原	4513~4537	宇 都 口	5578~5645
千 草 場	3653~3703	馬 渡	4538~4552	中 原	5646~5722
六 反 田	3704~3747	前 田	4553~4579	岡 村	5723~5779
五 反 田	3748~3787	堂 ノ 下	4580~4603	葎	5780~5802
崩 丸	3788~3804	築 地	4604~4645	冷 水	5803~5831
枇 杷 田	3805~3818	貝 吹 ケ 岡	4646~4648	岡 村 前	5832
蛭 牟 田	3819~3844	枇 ケ 八 重	4649~4651	柿 木 濱 弓 場	5833~5864
永 牟 田	3845~3879	江 ケ 崎	4652~4716	平 原	5865~5900
稲 牟 禮	3880~3819	段	4717~4799	床 波	5901~5947
古城小坂元	3820~3939	小 椎 八 重	4800~4802	豆 附	5948~5981
四 反 田	3940~3973	石 坂	4803~4848	田 渡	5982~6021
塩 井 川	3974~3994	洗 出	4849~4891	青 椎	6022~6042
金 輪 松	3995~4052	池 平	4892~4951	平 山	6043~6087
濱 弓 場	4053~4109	横 伏 敷 木	4952~5016	大 住 原	6088~6139
大 人 形 田	4110~4150	杵 段	5017~5070	寺 屋 敷	6140~6193
伊 牟 田	4151~4183	池 ノ 頭	5071~5072	大 住	6194~6236
木 浦	4184~4209	宮 ノ 前	5073~5101	方 木 山	6237~6255
宇 都 川	4210	中 間 原	5102~5137	鼓 原	6256~6274
岩 川	4211~4228	大 道 迫	5138~5173	後 迫	6275~6307
正牟田三反田	4229~4258	大 久 保	5174~5198	矢 八 ノ 岡	6308~6312
阿 弥 陀 原	4259~4309	紫 尾 田 原	5199~5258	廣 玉 ノ 上	6313~6325
茶 円 山	4310~4338	大 塚	5259~5330	廣 玉	6326~6369
柰 木 原	4339~4382	中 原 後	5331~5385	川 添 谷	6370~6390
正 牟 田	4383~4430	東 迫	5386~5438	上 仁 田	6391~6429
堂 ノ 迫	4431~4460	柿 木	5439~5469	山 口 田	6430~6471
榊 原	4461~4482	西 迫	5472~5499	床 波 前	6472~6512
廻 り 田	4483~4496	奈 良 松	5500~5527		
樋 脇	4497~4512	管 牟 田	5528~5577		

〔中ノ地区〕

小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
上 岸 田	1~ 35	水 流	151~ 181	後 田	252~ 300
下 岸 田	36~ 71	川 原	182~ 205	市 木	301~ 322
中 尾 田	72~ 98	檜 木 元	206~ 232	玉 桂	323~ 330
牧 原	99~ 150	山 下	233~ 251	床 波 下	331~ 336

横川町小字一覧表

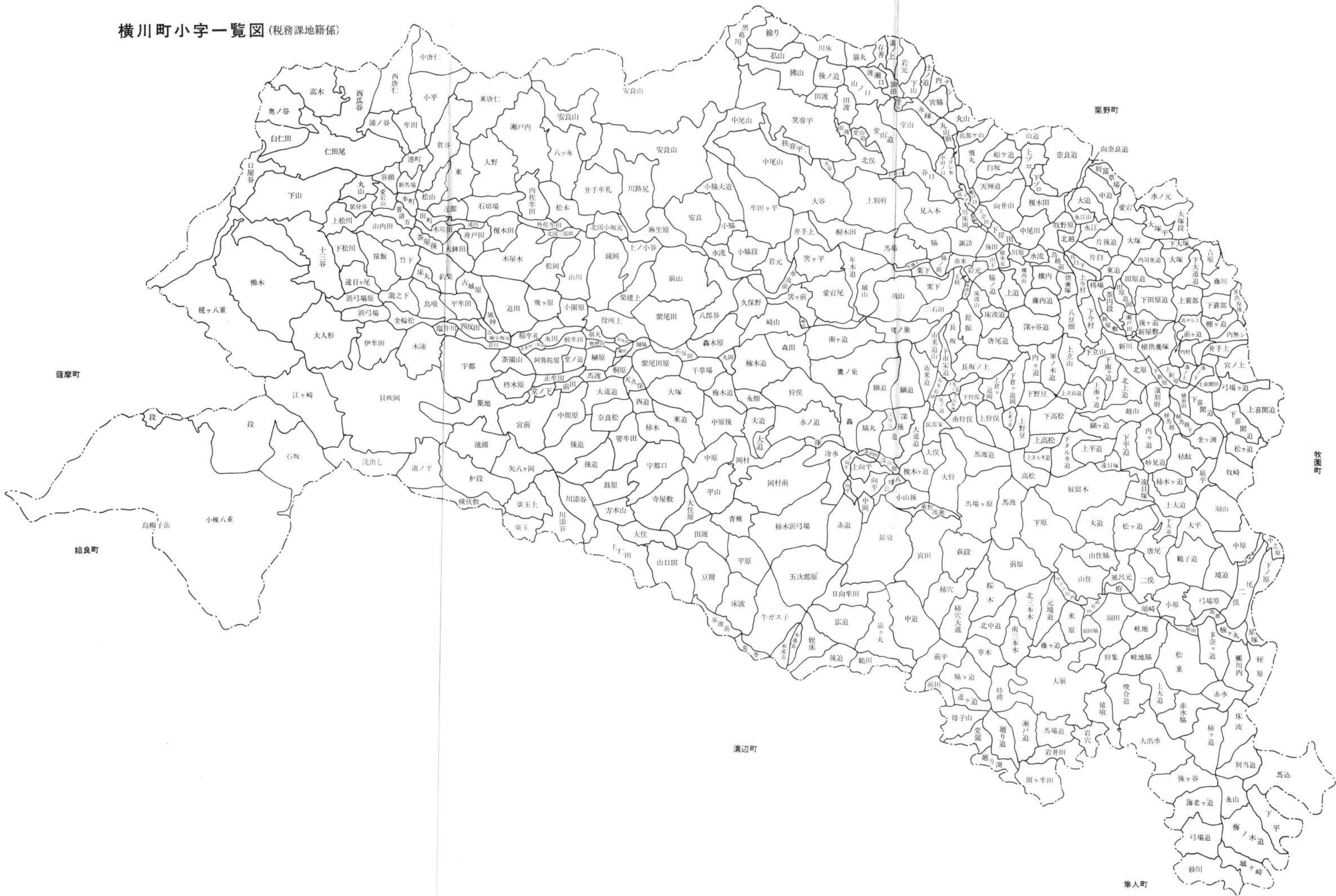
小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
仁 石 田	337～395	川 床	1793～1845	吉 原	2734～2747
鷹 ノ 巢	396～420	崩 丸	1846～1861	下 大 道 迫	2748～2773
年 木 ケ 迫	421～444	存 善	1862～1883	大 道	2774～2785
城 山	445～491	滝 ノ 上	1884～1901	内 司 免 迫	2786～2812
栗 下	492～555	岩 元	1902～1919	田 原 迫	2813～2837
脇 ノ 前	556～591	下 山	1920～1940	田 原 迫 岡	2838～2845
馬 場 下	592～614	土 ノ 迫	1941～1966	椅 場	2846～2858
馬 場 場	615～707	宮 脇	1967～1999	茶 円 段	2859～2883
桐 木 田	708～718	内 ナ シ	2000～2029	新 屋 敷	2884～2902
大 谷	719～756	丸 山	2030～2065	瀬 戸 田	2903～2924
中 尾 山	757～788	兵 部 ケ 山	2066～2088	下 田 原 迫	2925～2968
美 蓉 平	789	飛 丸	2089～2109	後 ケ 迫	2969～2985
田 渡	790～827	船 ケ 迫	2110～2138	植 供 養 塚	2986～3014
北 俣 府	828～836	山 迫	2139～2153	前 ケ 迫	3015～3022
上 別 脇	837～907	白 坂 迫	2154～2166	上 蓑 部	3023～3053
	908～955	天 神 迫	2167～2191	藤 川	3054～3081
諏 訪	956～1023	向 井 山	2192～2242	下 蓑 部	3082～3108
外 町	1025～1037	上 ゾ ロ	2243～2266	井 手 原 後	3109～3118
川 床 岡	1038～1070	下 ゾ ロ	2267～2277	棚 ケ 迫	3119～3138
見 入 木	1071～1157	榎 木 田	2278～2330	氏 ナ シ 上	3139～3158
谷 口	1158～1229	奈 良 迫	2331～2389	内 村	3159～3163
上 谷 口	1230～1243	向 奈 良 迫	2390～2394	落 ノ 上	3164～3179
堂 山 迫	1244～1306	別 富 草 場	2395～2410	上 新 原	3180～3215
堂 山	1307～1362	中 迫	2411～2425	下 新 原	3216～3241
小 山 ノ 口	1363～1397	大 迫	2426～2440	植 前 田	3242～3282
灰 ツ ブ キ	1398～1427	永 江 山	2441～2458	落 ノ 下	3283～3308
瀬 戸 口	1428～1456	永 江 江	2459～2472	内 無 シ	3309～3357
ゴ シ キ	1457～1474	北 越	2473～2491	井 手 上	3358～3388
丸 山 前	1476～1511	片 白 下	2492～2506	宮 ノ 上	3389～3417
永 縁	1512～1548	東 迫	2507～2533	上 喜 聞 田	3418～3460
桑 木 丸	1549～1568	片 白	2534～2560	下 喜 聞 田	3461～3534
油 田	1569～1596	片 後 迫	2561～2589	弓 場 ケ 迫	3535～3552
渡 瀬 口	1597～1641	大 塚	2590～2627	上 喜 聞 迫	3553～3589
山 ノ 口	1642～1683	愛 岩 平	2628～2646	下 喜 聞 迫	3590～3607
後 ノ 迫	1681～1702	大 塚 ノ 元	2647～2666	松 ケ 迫	3608～3628
拂 山 川	1703～1751	水 ノ 段	2667～2689	牧 崎	3629～3658
黒 葛	1752～1781	大 塚 段	2690～2715	中 原	3659～3748
餘 り	1782～1792	下 大 塚	2716～2733	羽 山	3749～3835

小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
大 平	3836~3878	上 立 山 迫	4509~4520	市 来 迫 山	5170~5182
下 大 迫	3879~3907	上 立 山	4521~4540	下 市 来 迫	5183~5194
上 大 迫	3908~3937	下 立 山	4541~4557	長 迫	5195~5207
崩 平	3938~3973	下 南 迫	4558~4575	長 坂 ノ 上	5208~5233
柿 木 ケ 迫	3974~4004	上 南 ケ 迫	4576~4587	下 尾 ノ 迫	5234~5245
枯 駄	4005~4032	越 山	4588~4603	下 狩 俣	5246~5263
金 ケ 測	4033~4044	濱 別 府	4604~4640	上 狩 俣	5264~5288
植 馬 越 下	4045~4099	北 上 迫	4641~4664	南 狩 俣	5289~5315
植 馬 越	4100~4121	北 原	4665~4702	下 民 部 塚	5316~5322
妙 見 迫	4122~4146	新 川	4703~4728	尾 ノ 迫	5323~5336
内 ケ 迫	4147~4166	下 今 村	4729~4764	民 部 塚	5337~5355
下 平 迫	4167~4196	八 豆 畑	4765~4788	大 假	5356~5379
遠 目 塚	4197~4216	上 今 村	4789~4821	榎 木 ケ 迫	5380~5404
上 平 迫	4217~4245	鳥 越 前	4822~4840	小 山 後	5405~5421
鍋 ケ 迫	4286~4319	供 養 塚	4841~4864	八 幡 良	5422~5449
下 ヌルキ 迫	4320~4346	藤 内 迫	4865~4893	向 平	5450~5470
上 ヌルキ 迫	4347~4351	横 内	4894~4923	中 岡	5471~5477
下 高 松	4352~4374	横 内 迫	4924~4945	赤 迫	5478~5488
上 高 松	4379~4391	上 迫	4946~4975	上 向 平	5489~5523
上 野 豆	4396~4401	深 ケ 谷 迫	4976~5023	深 前 田	5524~5550
上 倉 ケ 迫	4407~4417	唐 尾 迫	5024~5052	脇 丸	5551~5574
上 倉 ケ 迫 岡	4422~4431	床 波 迫	5053~5072	深 後 田	5575~5622
下 倉 ケ 迫 岡	4432~4438	脇 之 迫	5073~5087	大 道 ケ 迫	5623~5652
内 ケ 迫	4448	岩 元	5088~5108	市 来 迫 岡	5653~5659
軍 ノ 木 迫	4463~4484	床 波 山	5109~5133	市 来 迫	5660~5673
下 野 豆	4485~4500	鉈 振	5134~5169	飛 丸	5674~5675

〔下ノ地区〕

小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
清 水 迫	1~ 14	楠 ケ 丸	240~ 257	二 俣	434~ 492
中 之 原	15~ 50	島 廻	258~ 277	唐 尾	493~ 519
下 之 原	51~ 120	弓 場 原	278~ 300	松 ケ 原	520~ 558
尾 二 俣	121~ 158	境 迫	301~ 338	風 呂 元	559~ 608
星 塚	159~ 172	鶴 子 迫	339~ 382	山 住	609~ 657
姪 原	173~ 239	小 原	383~ 433	山 住 脇	658~ 707

横川町小字一覧図(税務課地籍係)



横川町小字一覧表

小 字 名	地 番	小 字 名	地 番	小 字 名	地 番
大 迫	708～773	柿 穴 大 道	2273～2310	梶	3253～3269
奴 留 木	774～892	北 中 ノ 迫	2311～2342	須 崎	3270～3298
下 原	893～1004	草 木	2344～2373	畦 地	3299～3342
高 松	1005～1041	脇 ケ 迫	2374～2419	畦 地	3343～3403
馬 渡	1042～1114	前 田	2420～2454	前 田	3404～3432
馬 場 ケ 原	1115～1223	道 ケ 迫	2455～2480	松 葉	3433～3508
馬 渡 迫	1224～1270	母 子 山	2481～2529	多 奈 賀 迫	3509～3542
大 狩	1271～1335	堂 領	2530～2561	觸 川 内	3543～3566
栗 野 渡 瀬	1336～1353	廻 り 湧	2562～2589	赤 水	3567～3598
鼠 喰	1354～1390	廻 り 迫	2590～2626	赤 水	3599～3637
日 向 牟 田	1391～1471	瀬 戸 迫	2627～2697	上 大 迫	3638～3668
五 次 郎 原	1472～1516	須 ケ 牟 田	2698～2748	焼 合 迫	3669～3687
牛 ス ケ 子	1517～1586	岩 井 田	2749～2787	猿 喰	3688～3703
荒 卷	1588～1609	岩 穴	2788～2820	大 出 水	3704～3729
木 道 迫	1610～1647	馬 場 迫	2821～2859	後 ケ 谷	3730～3755
姪 床	1648～1747	大 崩	2860～2861	柿 ケ 迫	3756～3789
後 迫	1748～1781	時 佛	2862～2890	床 波	3790～3811
廣 迫	1782～1898	南 三 本 木	2891～2927	別 当 迫	3812～3833
崩 ケ 迫	1899～1946	北 三 本 木	2929～2968	馬 込	3834～3854
鶴 田	1947～1981	ウ ソ ン 川 内	2969～2988	下 平	3855～3865
前 平	1982～2021	元 境 迫	2989～3031	永 山	3866～3885
中 ノ 迫	2022～2088	藤 ケ 迫	3032～3057	海 老 ケ 迫	3886～3911
宮 田	2089～2150	米 原	3058～3087	弓 場 ケ 迫	3912～3930
萩 段	2151～2175	武 社 田	3088～3107	梅 ノ 木 迫	3931～3962
前 原	2176～2199	羽 田 脇	3108～3146	城 ケ 崎	3963～3971
櫻 木	2200～2238	狩 集	3147～3186	砂 川	3972～3975
柿 穴	2239～2272	羽 田	3187～3252		

参考文献

文 献 名	編 著 発 行 者 名
桑原郡地誌 薩隅日地理纂考 神社誌 神社明細帳 三国名勝図会 始良郡史跡神社仏閣 天然記念物調査書 薩藩名勝志 隅州寺院由緒 山ヶ野金山神社由来記 金山万寛 佐々木校蔵書類 薩隅日州古戦場記 鹿児島県郷土史大系 薩藩御日記 横川軍記 長尾城史 鹿児島県史 山ヶ野金山鉱業誌 明治十年（丁丑）役略誌 西南記伝	樺山資雄外著 五代秀堯外著 (金山由緒書中外伝金山根元記) 石川哲著 須賀満嶺著 鹿児島県 五代龍作著 黒襲会編

大西郷突圍戦史 薩藩叢書 山ヶ野金山のすべて 山ヶ野小学校九十年史 金山三百年史 鹿児島大百科事典 牧園町郷土誌 横川町埋蔵文化財 発掘調査報告書 鹿児島県埋蔵文化財 発掘調査報告書 文化財の知識 実録昭和史 栗野町郷土誌より 「かくれ念仏」 隼人郷土誌 日本地名大事典 岩堂来迎弥陀三尊磨崖龍 の調査報告 大警視の道 横川町町制50年記念のあ しあと 横川町町勢要覧 横川町学校要覧 金山発（開）基 江戸考証事典 金山御取建由緒 色道大鑑	香春建一著 石川哲著 山ヶ野小学校校史編集委員会 南日本新聞社 牧園町 横川町教育委員会 鹿児島県教育委員会 鹿児島県教育委員会 ぎょうせい 栗野町林昭男記引用 隼人町 「角川日本地名大事典」編纂委員会 斎藤彦松 龍泉顕彰会 横川町 横川町 横川町教育委員会 市来惟宗政賢 稲垣史生
---	---

執筆担当

脇田 圭二（町文化財保護審議会委員長）

第四章 古代／第二章 神社・仏閣

長丸 静雄（町文化財保護審議会副委員長）

第六章 近世

佐藤 勝二（町文化財保護審議会委員）

第三章 原始・古墳時代／第七章 近

代／第八章 現代

小丸 幸俊（町文化財保護審議会委員）

第九章 横川町行政略史／第一〇章

横川町内学校沿革史／第十一章 横川

町内の官公署及び諸団体

益森 常雄（町文化財保護審議会委員）

第一章 自然／第二章 沿革概観と展

望／第五章 中世

湧之上堅志（社会教育指導員）

第十三章 文化財／付録 年表ほか

町誌編集事務局担当

編纂委員

委員長 横川 町長

羽田 哲

委員 教育委員会教育長

芝 貞夫

社会教育課長

福島 英行

編集をおえて

町制五十周年記念事業のひとつとして『横川町郷土誌』が発刊されることになり、大変うれしく思います。

横川には昭和三年に編纂された『横川町史』があります。これが、昭和四年と五〇年に二回増刊され、同時に内容の追録もありました。

今回これを基本にして改訂新版を発刊することになりました。内容を平易にしたり、自然や民俗文化財などを加えたりしました。そして、なるべく町民に親しまれ、読まれるようにと工夫しました。

しかし、まだ足りない点も多いかと思われます。時には誤記もあるかと思いますが、先達のご指導を得て逐次改訂されますので、その点ご容赦ください。

なお、郷土誌発刊にあたり写真や資料の提供、並びに執筆にご協力、ご指導くださった諸賢に対し深く感謝の意を表します。

(洵)



編集員一同

後列左から 長丸、福島、益森、芝、洵之上
前列左から 佐藤、小丸、脇田

横川町郷土誌

平成三年三月三十一日 発行

発行者 横川町長 羽 田 哲

鹿児島県姶良郡横川町中ノ263番地

編集者 横川町郷土誌編纂委員会

印刷者 第一法規出版株式会社

九州支社 福岡市中央区大手門三―五―一

